

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18530502
研究課題名（和文） 知識構造の発達障害と衰退：自閉性障害と統合失調症の比較による検討
研究課題名（英文） Deficits of knowledge structures: examination for children with autistic spectrum disorders and patients with schizophrenia
研究代表者 住吉 チカ（SUMIYOSHI CHIKA）
福島大学・人間発達文化学類・准教授
研究者番号：20262347

研究分野：認知心理学，臨床心理学，発達心理学
科研費の分科・細目：心理学・教育心理学
キーワード：教育心理学系，臨床心理学，統合失調症，発達障害，知識構造，語流暢性課題

1. 研究計画の概要

本研究の目的は以下である。

- (1) 広汎性発達障害を中心とする発達障害児の知識構造と、その発達の变化について調べる
- (2) 統合失調症患者における知識構造衰退の要因について、発達障害児との比較により考察する。

(1),(2)を併せて調べることにより、発達障害児の知識形成過と統合失調症の知識構造衰退が、認知発達の障害や神経発達仮説に由来する可能性を検討できると考える。

知識構造の評価は、語流暢性課題（Verbal Fluency Task; VFT）の発話データに基づく。具体的には、カテゴリ流暢性課題（Category Fluency Task; CFT）と文字流暢性課題（Letter Fluency Task; LFT）の発話語数パターンが、健常者と同様かについて調べる。また、CFTの発話順序データをもとに、意味ネットワークを構築し、健常者と比較する。

2. 研究の進捗状況

平成18年度の交付初年時より、平成21年3月31日までに以下の事柄を遂行した。

(1) 発達障害児童・成人について

広汎性発達障害、注意欠陥他動性障害児を中心に、VFTを含む認知機能検査課題のデータを収集した。

VFTデータを分析し、CFTとLFTの遂行パターンが健常児と異なることを明らかにした。

さらにCFT発話における意味まとまり数や大きさが、広汎性発達障害児と注意欠陥他動性障害児では異なる可能性を見出した。

高次認知機能と関わる言語表現（全称量化表現）の理解の発達が遅れる可能性を見出した。

WCST及び単語記憶課題を用いて、発達障害者とその同胞において、記憶の体制化能力が脆弱であることを明らかにした。

これらの研究により、研究概要の目的(1)に挙げた点、すなわち発達障害児の知識構造とその発達の变化の様相を把握しつつある。

(2) 統合失調症患者について

非定型抗精神病薬により一定期間治療を受けた統合失調症患者のVFTデータの収集と整理を行った。

日・米・トルコ語話者のVFTデータを分析し、LFTの障害度が書記言語により異なることを明らかにした。

上記事項の遂行により、研究概要の目的(2)に挙げる、「統合失調症患者における知識構造衰退の要因」について、基礎的事実を得つつある。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。特に発達障害児童については、知識構造の特異性や記憶体制化能力の障害傾向について、一定の知見を得た。一方、発達障害児童と統合失調症患者の知識構造の類似性については、今後の分析と考察を待つ。

4. 今後の研究の推進方策

今後以下事項について研究を進める予定である。

(1)統合失調症患者と発達障害児の CFT の発話データ分析し、多次元尺度法やクラスタ分析などにより、知識構造の類似性について検討する。

(2)統合失調症患者と発達障害児の VFT の発話量の比較を行い、両者ともに、健常者のような CFT > LFT パターンを示すかについて調べる。

(1)と(2)を通して、発達障害と統合失調症における高次認知機能の障害の様相を明らかにする。同時に、両者の類似点・非類似点について、認知発達や神経発達仮説の観点から考察する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件;全て査読有)

1. Sumiyoshi, C., Ertugrul, A., Yagcioglu, A. E. & Sumiyoshi, T., 2009. Semantic memory deficits based on category fluency performance in schizophrenia: Similar impairment patterns of semantic organization across Turkish and Japanese patients. *Psychiatry Research*, 167, 47-57.
2. 住吉 チカ 2008 統合失調症患者における精神症状と長期意味記憶との関連 *脳と精神の医学*, 18, 61-72.
3. Sumiyoshi, C., Sumiyoshi, T., Roy, A., Jayathirake, K. & Meltzer, H. Y., 2006. Atypical antipsychotic drugs and organization of long-term semantic memory: multidimensional scaling and cluster analyses of category fluency performance in schizophrenia. *International Journal of Neuropsychopharmacology*, 9, 677-683.

[学会発表](計 5 件)

1. Sumiyoshi C., A Ertugrul A, Yacioglu A, Roy, A., Jayathirake, K., Meltzer, H. Y., Sumiyoshi T.
Semantic memory impairment in Turkish and Japanese patients with schizophrenia. 第

4 回日本統合失調症学会, 2009 年 1 月 30 日, 大阪

2. 住吉チカ, 山下委希子, 住吉太幹

発達障害児の知識構造について: 語流暢性課題による検討. 第 72 回日本心理学会, 2008 年 9 月 19 日, 北海道

3. 住吉チカ

幼児の生物知識の発達: 語流暢性課題による検討. 第 50 回日本教育心理学会, 2008 年 10 月 11 日, 東京

4. Sumiyoshi C., A Ertugrul A, Yacioglu A, Roy, A., Jayathirake, K., Meltzer, H. Y., Sumiyoshi T.

Language-dependent performance on the verbal fluency tasks in schizophrenia: A cross-linguistic study. 2nd WFSBP Asia-Pacific Congress, 2008 年 9 月 13 日, 富山

5. Sumiyoshi C., Sumiyoshi T.

Linguistic variability in the performance on verbal fluency tasks in schizophrenia
2nd WFSBP Asia-Pacific Congress, 2008 年 9 月 12 日, 富山

[図書](計 1 件)

Sumiyoshi C., Sumiyoshi T., 2006
Semantic memory deficits in schizophrenia
Dogulus P. French (Ed), *Schizophrenic psychology: New research*. Nova Science Publishers, 255-279.

[その他]

研究代表者 URL:

<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp/modules/tinyd6/index.php?id=28>